

昔から関西には旦那衆（オーナー）がいて、店は自分で経営せず他人に任せる商法があります。

現に、私の四日市市の友人はその代表的な人物であり、それが縁で息子さんを預かり、暁星高校へと入学させたこともありました。

これから経営者の高齢化、後継者の不在に伴って、商店街に閉店、廃業する店舗が増えることが懸念されており、千葉県内でもかつては北総の名門の町が廃墟化しております。私達の街でも「閉店、空店舗」対策は大きな課題となってくるでしょう。この対応として一つは行政、他団体と協力して、今までと違った芸術、文化、物産、特産品などの紹介、地域のコミュニケーションの場として生かす方法があります。

もう一つは、先だって開講した「希満塾」があります。「希満塾」は新しい時代に適応するための調査・研究、志を同じくする仲間づくり、異業種交流を発展させ、新しい事業への挑戦、協業化へと結び付けていくことを目標としています。

こうした活動を通して、新しく自立、創業を目指す人を育て、投資家とも言える家主（オーナー）との調整仲介役を行っていくことが、私達（会議所）の新しい役目となるでしょう。また、館山道、富山町の

道の駅『<sup>ふらり</sup>富楽里』の考え方は、他から大型店を誘致せず、町全体の産業の活性化のために巨大投資されて、

街の雇用を極めて大きなものにしました。保田漁組の<sup>ばんや</sup>「番屋」も全く同じ発想であり、地魚料理で年間4億円を超えると聞きました。新しい発想と行動力により、事業の発展のシーズ（種）はいくらでもあります。

そして410号沿線も整備されると共に、いろいろな店舗が増えており、地元の人達が恩恵を得られる様な工夫と努力をしたいものです。内房街道もまだまだ捨てたものではありません。